

内部統制 報告制度の改訂

EY新日本有限責任監査法人
山中彰子

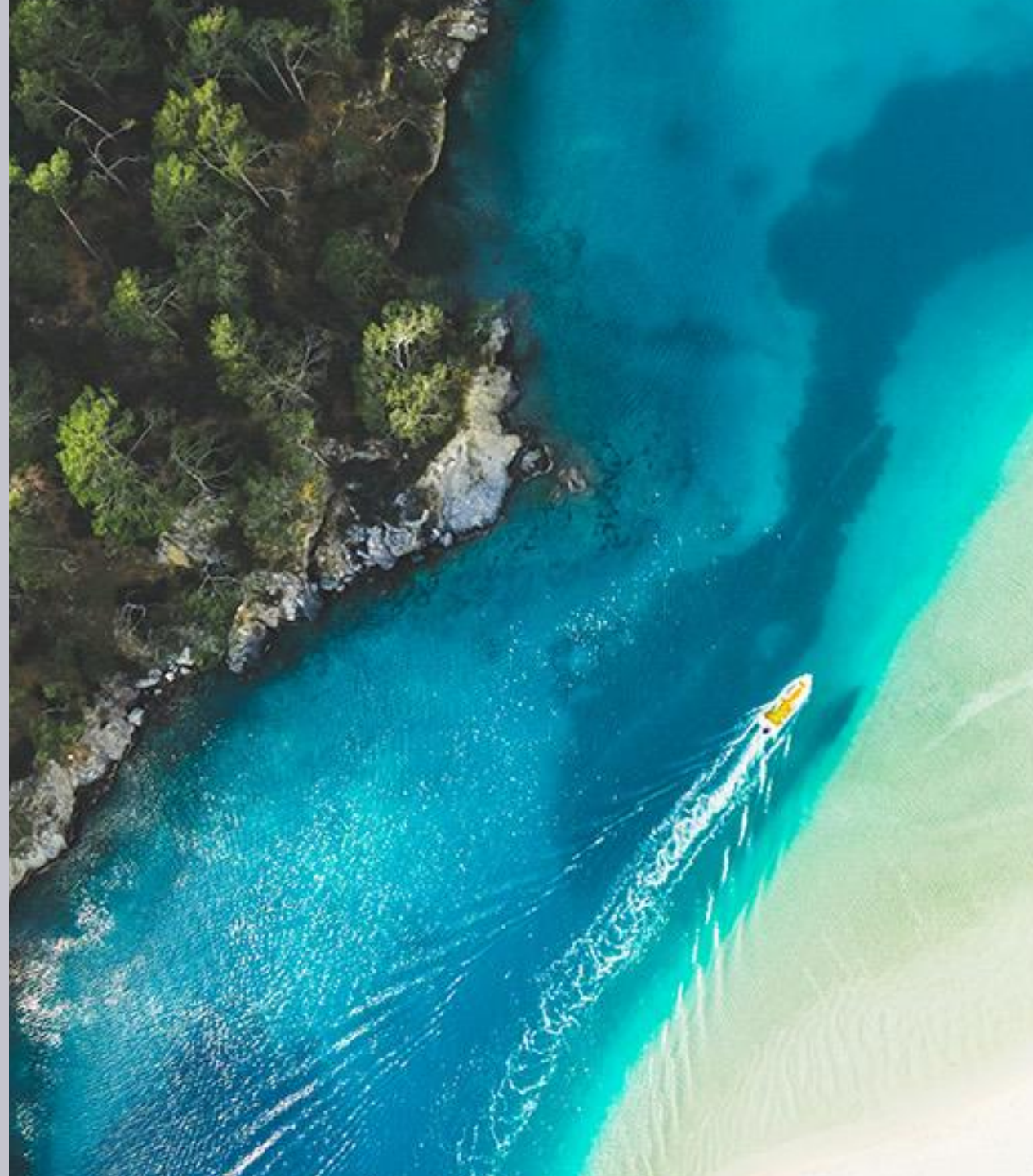


改訂の概要

2023年改訂内容

- 1 改訂の背景
- 2 評価範囲の決定
- 3 内部統制の基本的枠組み
- 4 不正リスク、内部統制の無視・無効化リスクへの対応

改訂概説 2023年改訂内容 改訂の背景



内部統制報告制度

改訂概説
2023年改訂内容
改訂の背景

1

2008年

4月1日以後開始する事業年度から、上場会社に対して制度化

2023年

改訂の背景

1

財務報告の信頼性の向上に**一定の効果があったとされる一方**で、経営者による内部統制の評価範囲の外で開示すべき重要な不備が明らかになる事例や内部統制の有効性の評価が訂正される際に十分な理由の開示がない事例が一定程度見受けられる

経営者が内部統制の評価範囲の検討に当たって、**財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性を適切に考慮していないのではないか等**の内部統制報告制度の**実効性に関する懸念**が指摘されている

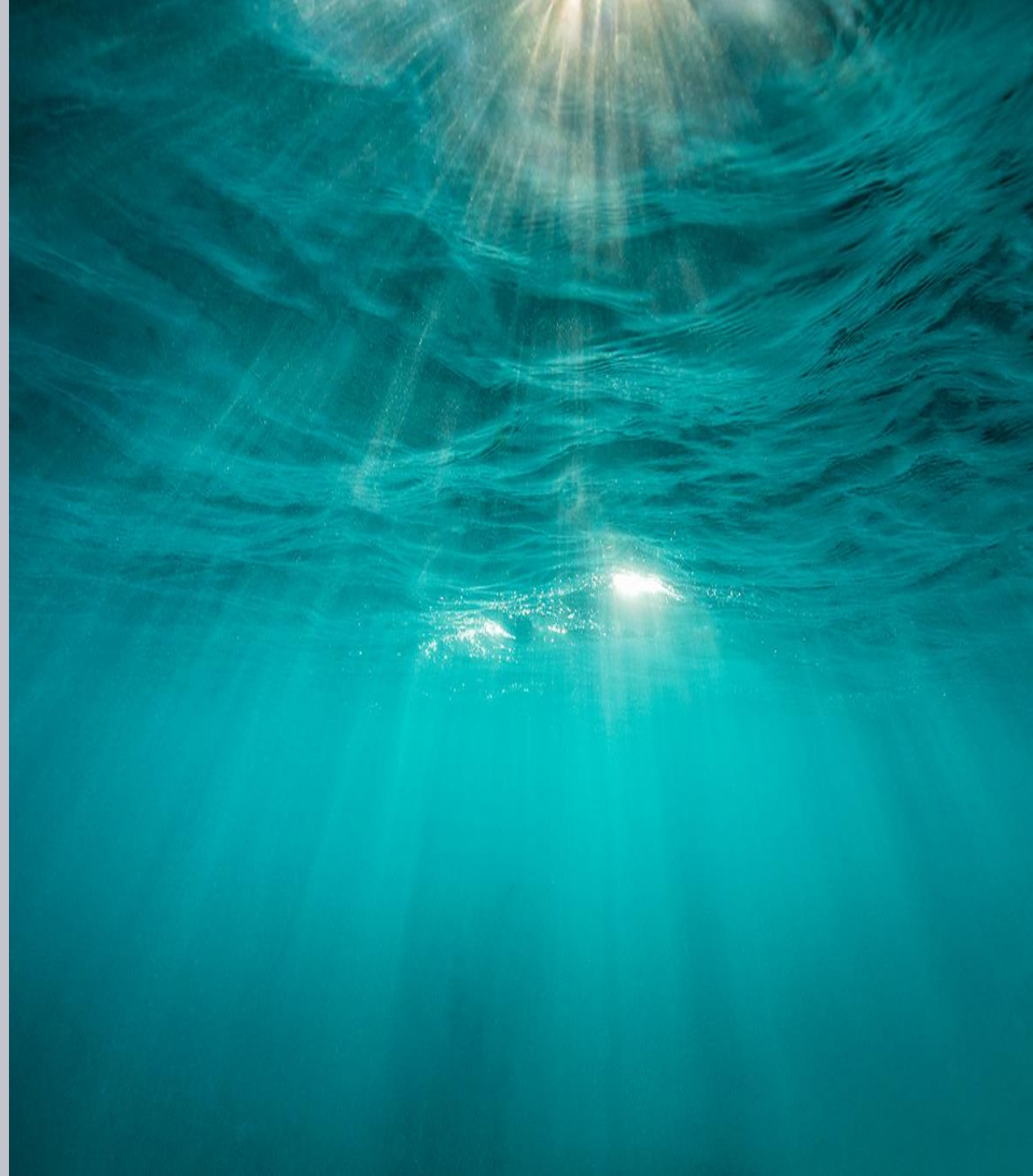
2

米国のCOSO(トレッドウェイ委員会支援組織委員会)の内部統制の基本的枠組みに関する報告書は、**経済社会の構造変化**や**リスクの複雑化**に伴い改訂された。

内部統制報告制度ではこれらの改訂は行われてこなかった。

改訂概説
2023年改訂内容

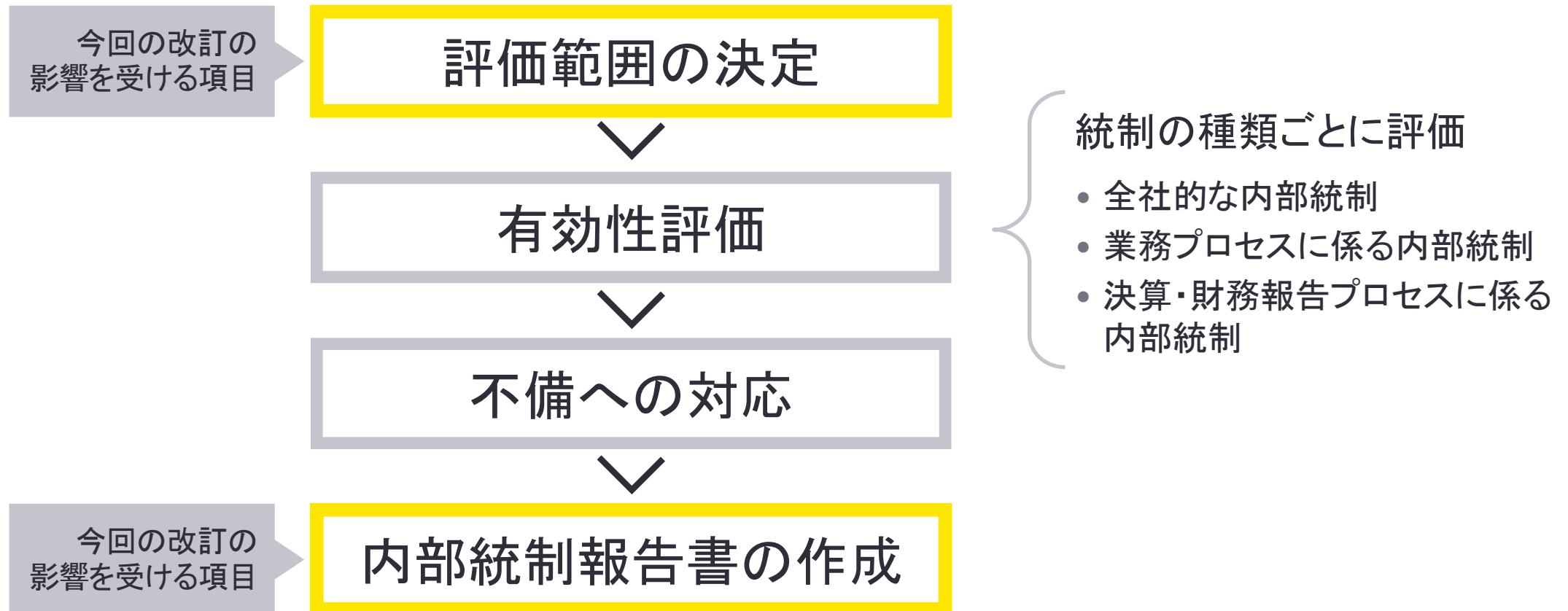
評価範囲の 決定



内部統制の評価・報告の流れ

改訂概説
2023年改訂内容
評価範囲の決定

2



評価範囲の決定

トップダウン型・リスクアプローチ

連結ベースでの財務報告全体に影響を及ぼすため、まず、
全社的な内部統制が機能しているかどうかについて心証を得る

全社的な内部統制及び全社的な観点から評価する決算・
財務報告プロセスは、**原則として全ての事業拠点**を評価

その結果に基づき、財務報告の重大な虚偽記載に繋がる
リスクに着眼して業務プロセスの個々の内部統制を評価
していくアプローチ

評価対象とする **業務プロセスの決定**

評価範囲の決定

業務プロセスに係る内部統制

重要な事業拠点

重要な事業拠点の選定



企業の事業目的に大きく関わる
勘定科目の決定



当該勘定科目に至る
業務プロセスの識別



個別に評価対象に追加する
業務プロセスの識別

- 売上高等の重要性により決定
- 選定指標を用いて、
金額の高い拠点から選定

- 金額的及び質的影響を考慮
- 選定指標は基本的には売上高
- 環境・状況によっては、異なる指標
又は追加的な指標を使用可能

一般的な事業会社については、

原則として、売上、売掛金、棚卸資産

原則として全てを評価対象

ただし、重要な事業又は業務との関連性が低く、財務報告に対する影響の重要性も僅少である場合、評価対象外とできる

財務報告への影響を勘案して、
重要性の大きいプロセスを追加

- リスクが大きい
- 見積りや予測を伴う
- 非定型・不規則
- その他

財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性を適切に考慮すべきことの強調

グループ内
子会社のどこに
リスクがあるのか
識別できているか
が問われている

- 例示については、機械的に適用すべきでないとされた
- 内部統制府令ガイドラインの改正案が公表されており、評価範囲を決定した手順、方法等に加え、**根拠の記載**の追加を明示的に要求

リスクの識別方法
や評価範囲の
決定根拠の説明
が求められている

- 個別に評価範囲に追加する業務プロセスの例示が追加
勘定科目や取引に関する性質だけではなく、**企業や企業環境の
変化によって新たに生じるリスクが追加**

リスクは**絶えず
変化するもの**
という認識が重要

- 規制環境や経営環境の変化による競争力の変化
- 新規雇用者
- 情報システムの重要な変更
- 事業の大幅で急速な拡大
- 生産プロセス及び情報システムへの新技術の導入
- 新たなビジネスモデルや新規事業の採用
又は新製品の販売開始
- リストラクチャリング
- 海外事業の拡大又は買収
- 新しい会計基準の適用や会計基準の改訂

- ほか、
- 評価範囲に含まれない期間の長さを適切に考慮することが記載された。
 - 評価範囲の決定時から変化があった場合には、評価範囲の見直しについて、監査人と協議することが適切とされた。

内部統制報告書を訂正する場合

改訂概説
2023年改訂内容
評価範囲の決定

2

(補足) 内部統制報告書を訂正する場合の取り扱い

- 内部統制府令、改正草案が公開されている。
- 「内部統制は有効」から「開示すべき重要な不備があり、内部統制は有効でない」と訂正する場合には、以下の事項の記載が求められる。

一 当該開示すべき重要な不備の内容

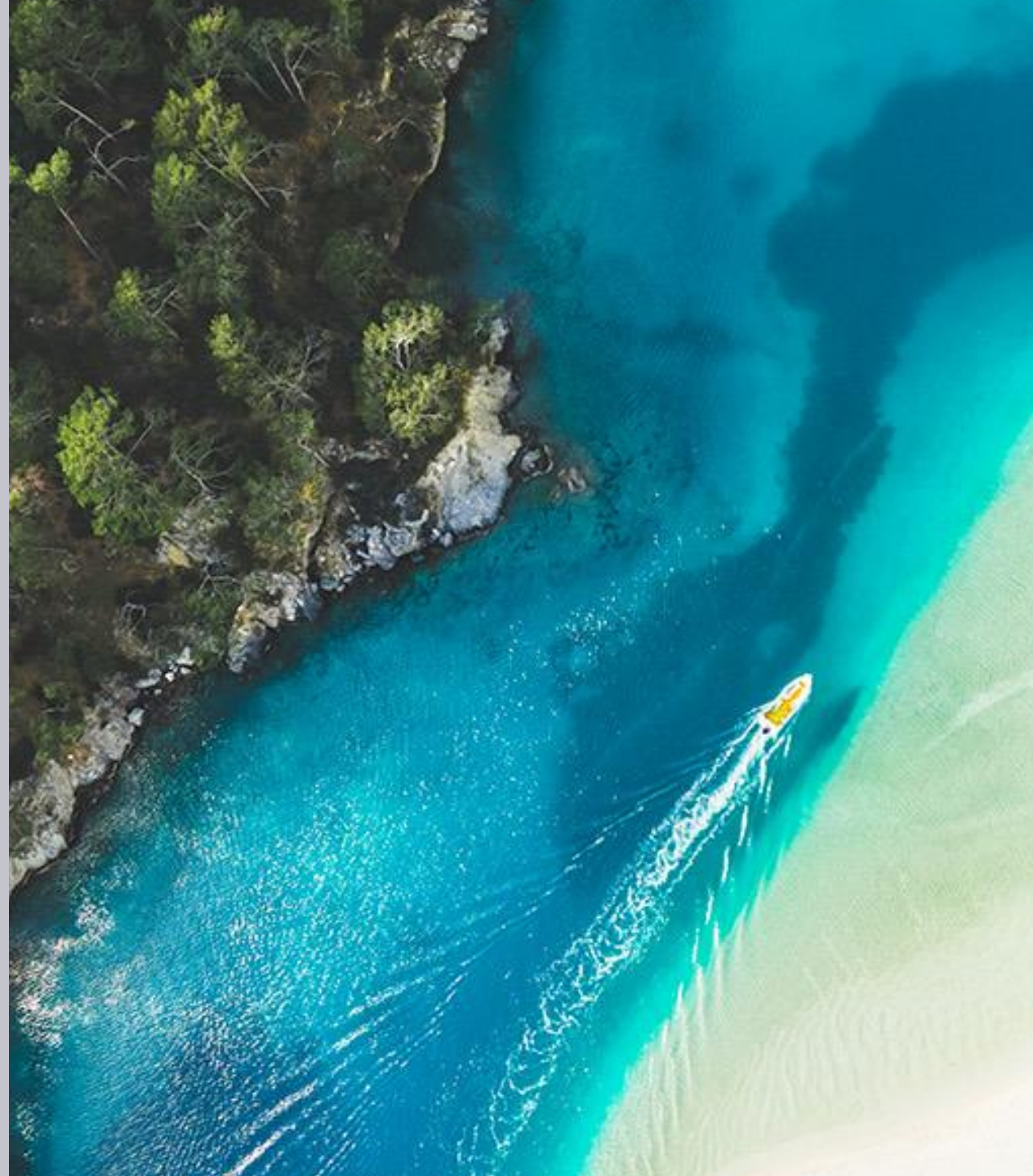
二 当該開示すべき重要な不備を是正するために実施された措置がある場合には、当該措置の内容及び当該措置による当該開示すべき重要な不備の是正の状況

三 **新** 財務報告に係る内部統制の評価結果を訂正した経緯

四 **新** 当該訂正の対象となる内部統制報告書に当該開示すべき重要な不備の記載がない理由

改訂概説
2023年改訂内容

内部統制の 基本的枠組み



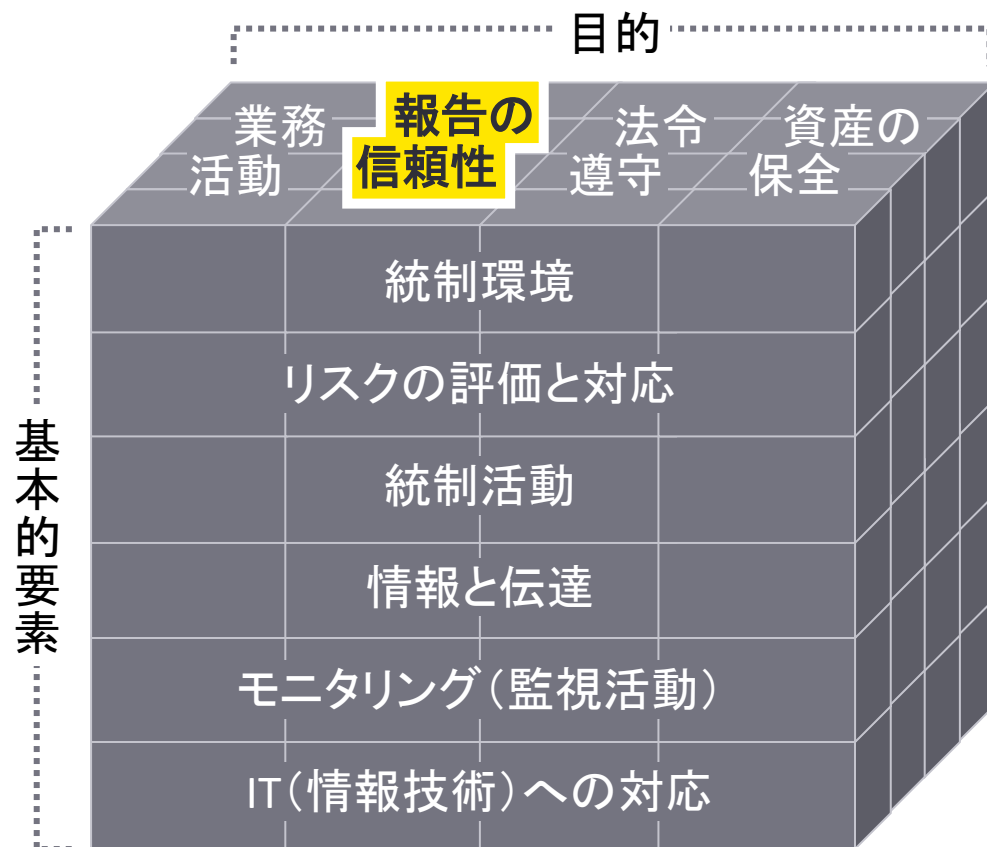
財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項

改訂概説
2023年改訂内容
内部統制の基本的枠組み

3

定義

内部統制とは、基本的に、下記の**4つの目的**が達成されているとの合理的な保証を得るために、業務に組み込まれ、組織内の全ての者によって遂行されるプロセスをいい、下記の**6つの基本的要素**から構成される。



報告の信頼性

とは、組織内及び組織の外部への報告(非財務情報を含む。)の信頼性を確保することをいう。

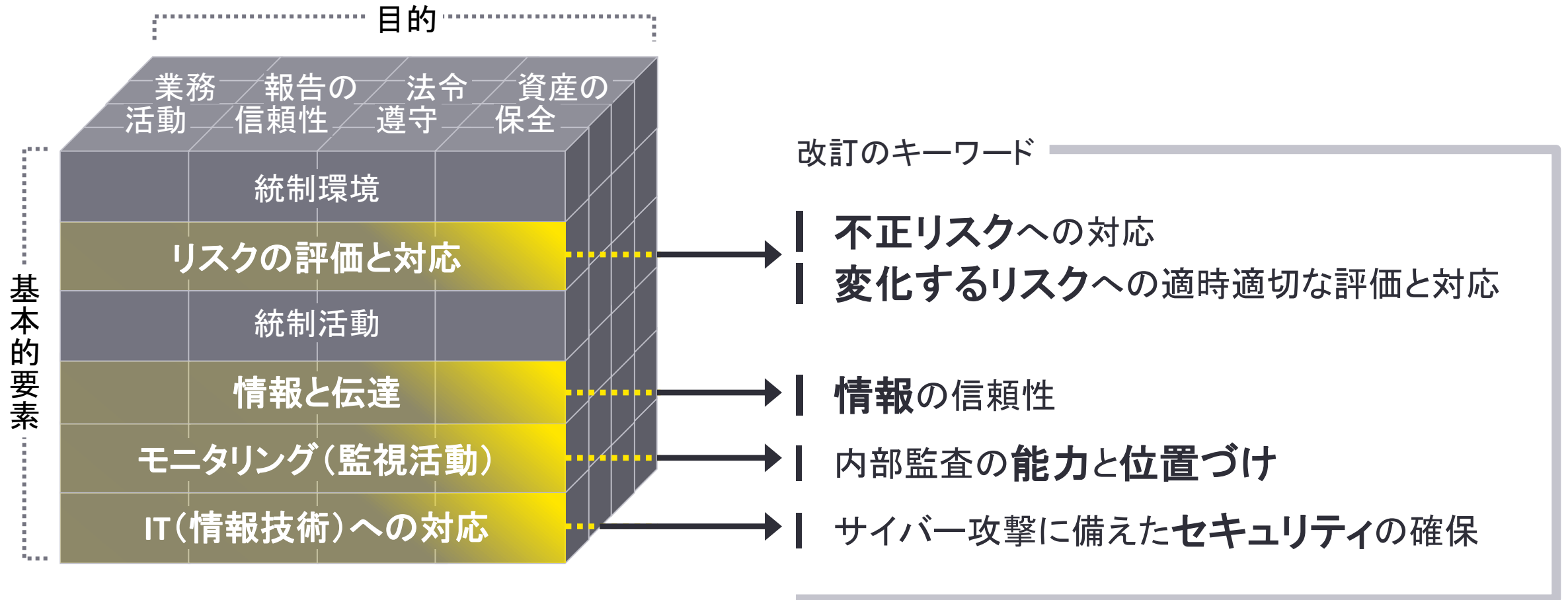
(注) 報告の信頼性には、財務報告の信頼性が含まれる。**財務報告の信頼性**は、財務諸表及び財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性のある情報の信頼性を確保することをいう。

金商法が要求する内部統制の評価対象は変わらない。

内部統制の基本的要素の改訂

改訂概説
2023年改訂内容
内部統制の基本的枠組み

3





組織の気風を決定し、組織内の全ての者の統制に対する意識に影響を与えるとともに、**他の基本的要素の基礎をなし**、リスクの評価と対応、統制活動、情報と伝達、モニタリング及びITへの対応に影響を及ぼす基盤をいう。

- 誠実性及び倫理観
- 経営者の意向及び姿勢
- 経営方針及び経営戦略

- 取締役会及び監査役会又は監査委員会の有する機能
- 組織構造及び慣行
- 権限と職責

組織目標の達成に影響を与える事象について、組織目標の達成を阻害する要因をリスクとして識別、分析及び評価し、当該リスクへの適切な対応を行う一連のプロセスをいう。

適切な対応に当たっては、評価されたリスクについて、その回避、低減、移転又は受容等、適切なものを選択する。

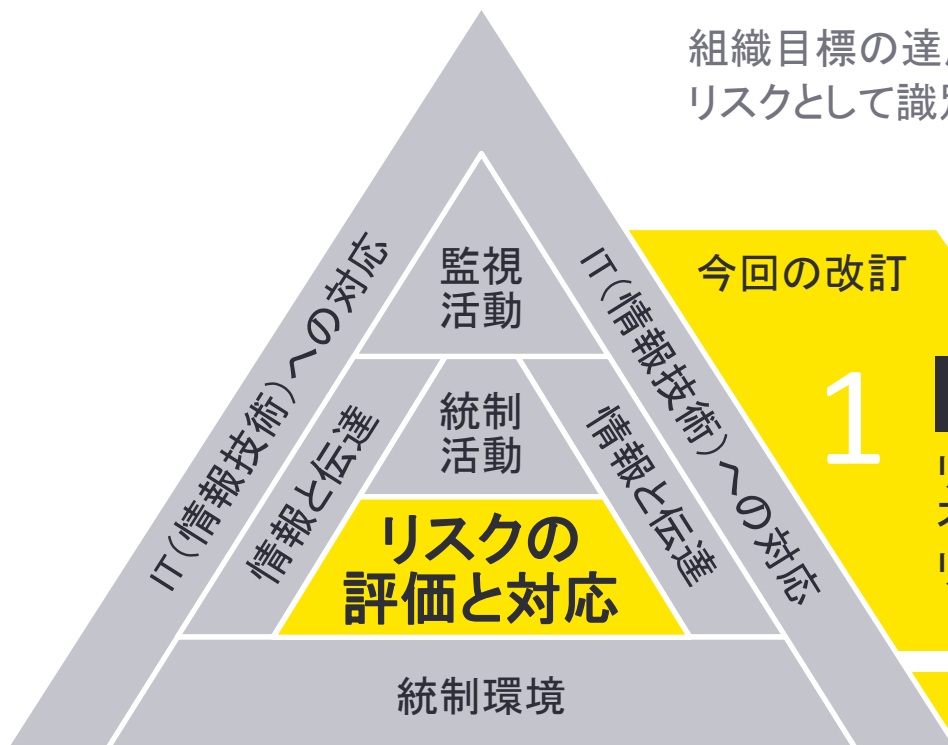
今回の改訂

1

不正リスク

リスクには、不正に関するリスクも含まれる

- 不正及び違法行為の結果発生し得る**不適切な報告、資産の流用及び汚職**について検討が必要
- 不正に関するリスクの評価においては、**動機とプレッシャー、機会、姿勢と正当化**について考慮



リスクへの
適切な対応

分析及び
評価

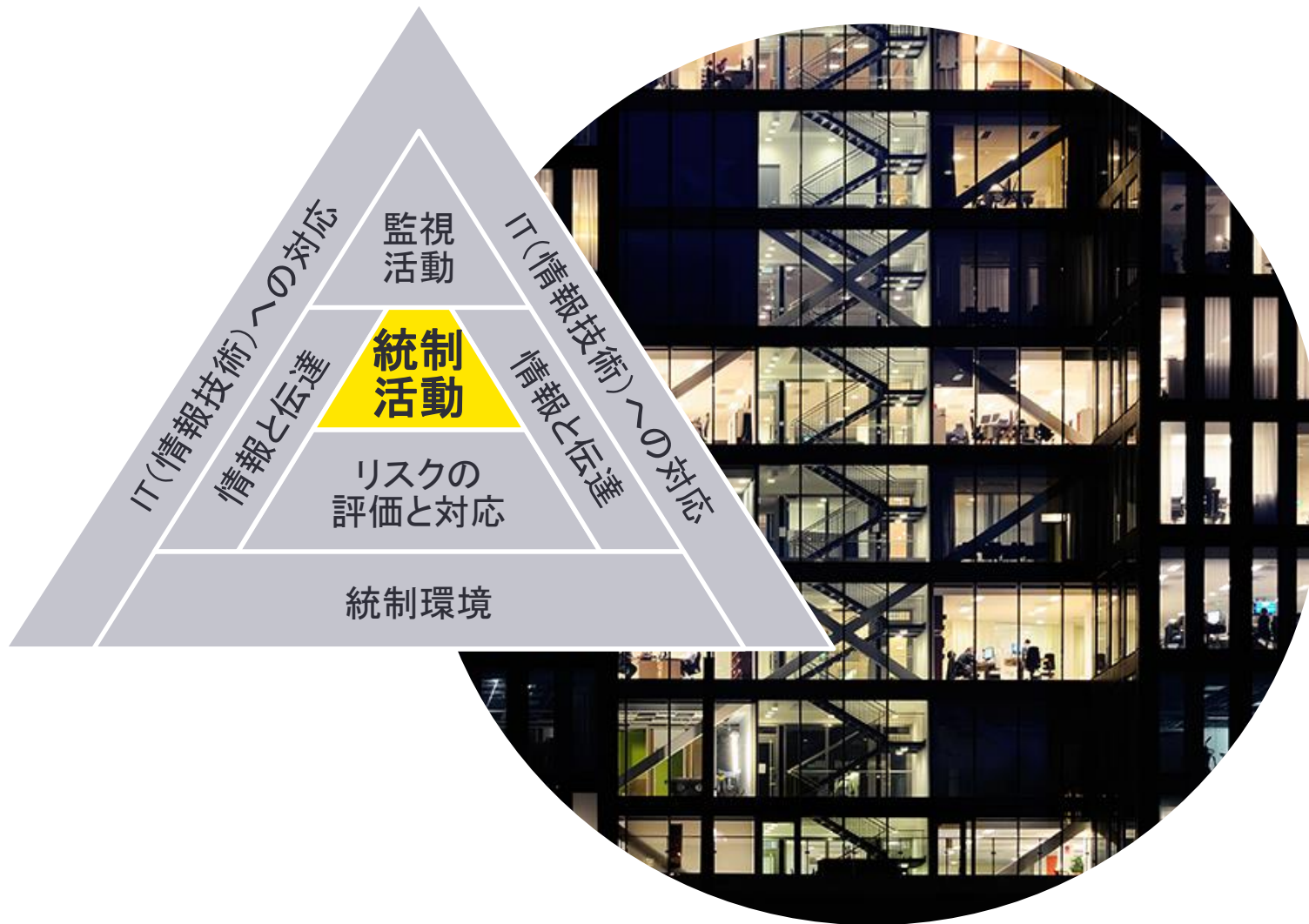


2

リスクの変化に応じた再評価

- 変化に応じてリスクを再評価し、対応を見直すことが重要

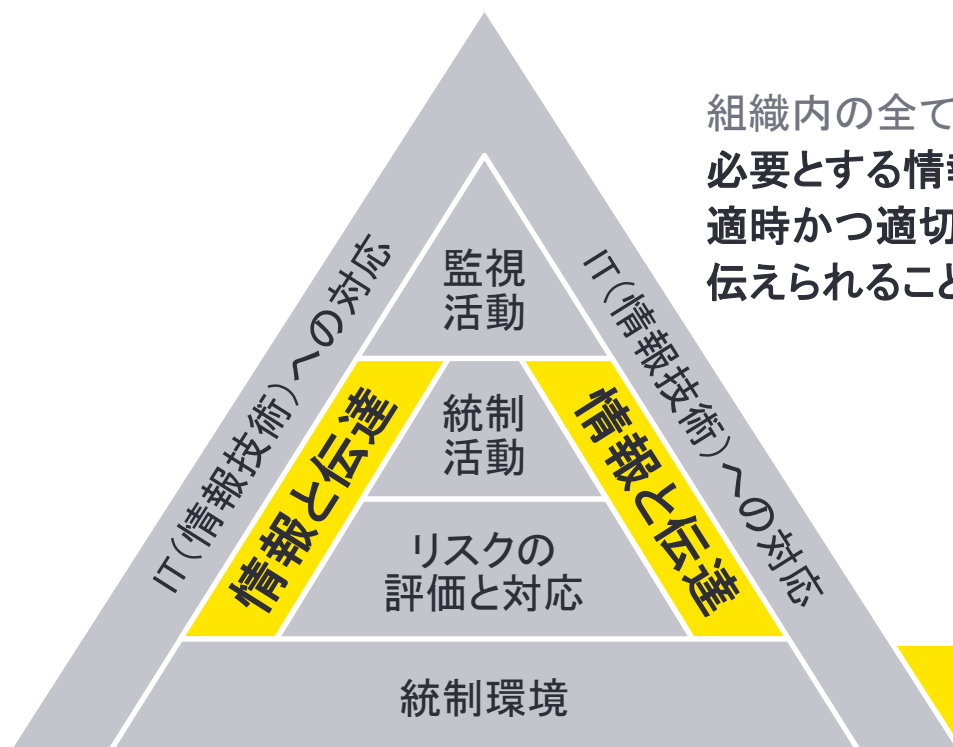




経営者の命令及び指示が適切に
実行されることを確保するために
定める方針又は行為をいう。

統制活動には、権限及び職責の付与、
職務の分掌等の広範な方針及び手続が
含まれる。

このような方針及び手続は、業務の
プロセスに組み込まれるべきものであり、
組織内の全ての者において遂行される
ことにより機能するものである。



組織内の全ての者が各々の職務の遂行に
必要とする情報が、識別、把握及び処理され、
適時かつ適切に、組織内外及び関係者相互に正しく
伝えられることを確保することをいう。

また、必要な情報が伝えられるだけでなく、
それが受け手に正しく理解され、その情報を
必要とする者に共有されることが重要となる。

今回の改訂

情報の信頼性

大量の情報を扱い、業務が高度に
自動化されたシステムに依存
している状況においては、情報の
信頼性が重要



財務報告に係る内部統制が有効に機能していることを継続的に評価するプロセスをいい、「業務に組み込まれて行われる日常的モニタリング」と「業務から独立した視点から実施される独立的評価」が存在する。

今回の改訂

内部監査人

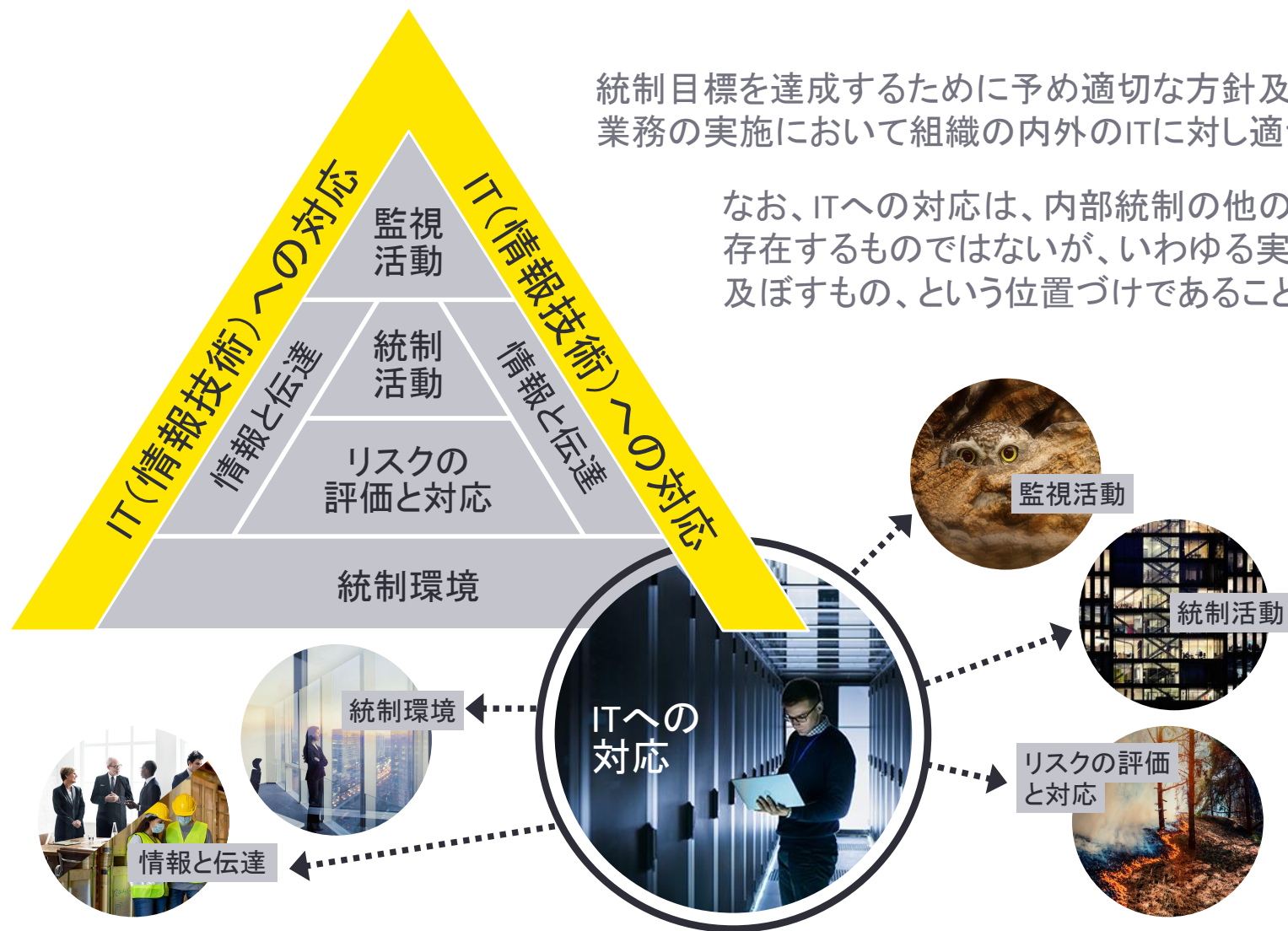
- 熟達した専門的能力と専門職としての正当な注意の必要性
- 経営者のみならず、取締役会及び監査役等への報告経路を確保することが適切

内部統制とガバナンス 及び全組織的なリスク管理

- 一体的に整備及び運用されることの重要性の明示(3線モデル等の例示)

統制目標を達成するために予め適切な方針及び手続を定め、それを踏まえて、業務の実施において組織の内外のITに対し適切に対応することをいう。

なお、ITへの対応は、内部統制の他の基本的要素と必ずしも独立に存在するものではないが、いわゆる実施上の重要な影響を及ぼすもの、という位置づけであることに留意する。



今回の改訂

進化への対応

- 適時かつ適切な対応
- ITに関する業務の委託の増加
委託に係る統制の重要性
- サイバーリスクの高まりに対応
した**セキュリティの確保**の
重要性

改訂概説
2023年改訂内容

不正リスク、 内部統制の 無視・無効化 リスクへの対応



判断誤り、不注意

複数の担当者による共謀

内部統制の無視・無効化

組織内に適切な全社的又は業務プロセスレベルに係る内部統制を構築していれば(※)、複数の者が当該事実に関与することから、内部統制の無視・無効化は相当程度、困難なものとなり、結果として、経営者等自らの行動にも相応の抑止的な効果をもたらすことが期待されている

※ 適切な経営理念等に基づく社内の制度設計、適切な職務分掌、経営者の内部統制の整備運用責任に対する取締役会による監督、監査役等による監査、内部監査人による取締役会や監査役等に対する直接的な報告

適切に構築された
内部統制



ご清聴ありがとうございました